



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一問一答

来松者のニーズを高める施策について
と公共施設マネジメントについて



動画でチェック

◆ミニハブ空港を目指す施策について

外国人来松者の動向及び本市の外国人宿泊者数は。

台湾の団体客が多いが、小松空港以外から入国し、本市を訪れる旅行者も増えている。2022年の外国人宿泊者数は、約千人。

外国人旅行者は外資系宿泊施設を望むとの事だが空港周辺整備は。

国等との連携や民間投資を誘発したまちづくりにより、世界に開かれた臨空エリアを目指す。

◆世界に開かれた施策について

おもてなしとして多言語を話す市民が増えればと思うが考えは。

今までも市民の国際親善を図ってきた。オリンピックの際もホストタウンとし市民力を高めてきた。この仕組みをつなげていく。

金沢にはタックスフリーのお店がたくさんあるが本市の現状は。

小松空港内の土産店、ショッピングモール、ドラッグストア等ある程度の店舗数の登録がある。

◆奥の細道トークショーを受けて開催しての成果及び市内の芭蕉句碑は。

来場者満足度は高く、俳句への愛着が深まった。また、出演者との御縁も成果の一つ。芭蕉句碑は那谷寺等8か所以上ある。

那谷寺周辺に芭蕉関連の施設を作ってはどうか。

那谷寺・松尾芭蕉は、市の重要な文化・観光資源であり、今後も魅力の相乗効果を図っていく。

◆市立小中学校の大規模改修計画について

これまでの主な大規模改修の内容は。

外壁改修や屋外防水、教室のLED化・内装改修等。

今後の改修計画は。

修繕実績を検証し、国の認可を得て進めていく。

◆その他公共施設の計画について

市内公共施設の経過年数は。

公会堂は築64年、末広体育館は築60年、博物館は築53年経過等

更新時の課題や制限は。

現行法令や基準等への適合が挙げられる。

うららの大ホールは音響が悪いと聞くがどうか。

一定レベルの音響性能があり、音楽利用に配慮されている。



表 靖二(おもてやすじ)議員

一問一答

栗津駅周辺整備について



動画でチェック

◆栗津駅周辺整備について

12月補正予算の内容及び今後のスケジュールについて。

自由道路や駅西広場整備に伴う事業の資材価格の高騰等による事業費増大等から、計画を見直し、令和10年度末完成を目指す。

ラウンドアバウト

ラウンドアバウト

ラウンドアバウト

ラウンドアバウト

の交差点は設計中であり、改めて確認したい。



栗津駅周辺(2040年ビジョンより)

◆企業誘致と公立小松大学について

水資源の点から小松市への半導体製造は通ずるか。

上水道の供給量は、1日の平均日量は約3万7千トン。最大の供給可能日量は約8万7百トン。正蓮寺町進出予定の半導体部品製造企業は、洗浄水確保の必要から、企業が井戸3か所を設置している。

公立小松大学でのICT教育の実情について。

生産システム科学科では、情報科学など専門知識を修得する知能機械コースがある。また、情報処理技術者等とし活躍する人材養成がスタートしている。

ICT人材の育成が企業誘致につながるのではないか。

社会ニーズに対応した人材育成を期待し、取り組んでいく。

◆市公会堂と未来型図書館について

公会堂を廃止する理由は。

芦城公園の公共施設再編をし、未来型図書館へ集約の方針で、公共施設マネジメントと一体となつた事業推進が図られる。未来型図書館整備、建築面積確保が可能となる。

長寿命化を図り利用の継続ができないか。

芦城公園の機能見直しの基本方針があり、公会堂の個別の計画はない。所要の安全対策が実施されている状況である。

予算決算常任委員会総括質疑

令和5年度12月補正予算

◆小松志士の会◆



木村賢治委員



動画でチェック

◆学校給食運営費

Q 公会計化で何が変わるのか。

A 監査体制の充実により、学校給食費の透明性が向上する。

Q 学校給食会は監査の対象だったのか。公会計化でどうなるのか。

A 市の監査の対象となっていない。公会計化後の組織は市の監査の対象となる。

Q さらになる食育、地産地消の推進をお願いしたい。

A 食育と地産地消で地域への理解と食文化継承を促進する。

◆公園施設リニューアル費

Q 第一校下は公園の適正配置が不十分。児童公園が無い町もあるが。公園の新設は可能か。

A こどもの広場は、町内会の要望を受けて、一定の条件を満たす場合、整備することは可能。



中西肇委員



動画でチェック

◆社会教育振興基金積立金

Q 基金の目的及び目標額は。

A 未来型図書館の備品等整備の為に5か年で1億5千万円。

Q 公共施設マネジメント計画とは何か。

A 次世代に負の財産を残さないために、公共施設の再編整備、統廃合に取り組み計画である。

Q 芦城公園周辺施設再編とは。

A 図書館、博物館及び公会堂は解体し未来型図書館に機能を集約。大ホールは、都市公園法や建築基準法に適合しない。

Q 公会堂の長寿命化の考えについて。

A 耐震壁設置に伴い座席数は七割になる。音響・照明等の更新を考慮すると長寿命化は困難。

Q 図書館構想の今後は。

A 今後、事業方針を取りまとめ、来年度は基本計画を策定する。

◆自民党こまつ◆



川崎順次委員



動画でチェック

◆社会教育振興基金積立金

Q 基金積立の目的は。

A 未来型図書館の什器や備品等の購入へ活用予定。

Q 公会堂の平成23年度耐震診断調査の結果は。

A IS値0.75の指標に対して、南北方向は0.30、0.56、東西方向は0.26、1.69。

Q 大ホール天井軽量化等の工事後のIS値に変化があったか。

A IS値に大きな変化があったものではないが、工事により当面の危険性を回避した。

Q 令和2年3月議会で、前市長に老朽化が著しい公会堂で安全性が保てないと質問。前市長は、一部の重い部分を取り除けば十分大丈夫、結果IS値は大きく上回った、完全にクリアしたとも答弁。この答弁は、虚偽答弁にもあたると疑わざるを得ない。宮橋市長はどう受け取られるか。

A 当時の市長は、当面の安全対策を確保してきたことに対して答弁されたのではないかと思う。事実上誤認があつての答弁と推察する。

Q 長寿命化を図れるか。

A 公会堂の躯体自体の補強が必要となり、建物内部への耐震壁設置など施設機能が大きく損なわれ、継

続的な利用は現実的ではないと考えている。

Q 多くの観客を入れるイベントの一番大事な事は、命、安全である。今後の取組は。

A これまでの公会堂に感謝しつつそのレガシーを大切にしながらも、これからの小松に向けてビジョンを持って挑戦していくことが今我々に課せられた使命であり、先送りできないのではないかと考えている。

◆定住促進費

Q 小松をどうPRしていくのか。

A 首都圏との行き来が非常にしやすく便利であること、子育てについてダントツであることのPRが重要と考えている。

◆無党派◆



木下裕介委員



動画でチェック

◆職員人件費について

Q 今回の人事院勧告の期末・勤続手当は、正規職員が0.1月、会計年度任用職員は0.05月引上げられるが、会計年度の方も0.1月に引上げてはどうか。

A 勤続手当の支給対象となっていない会計年度任用職員は、本来引上げの対象外であったが、正規職員とのバランスを考慮し、勤続手当の増額見合いについて会計年度任用職員の期末手当の引上げを行っている。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 梅田利和
副委員長 宮西健吉
全議員所属

議案第71号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第4号)について

■新幹線通勤通学支援費 (12,000千円)

新幹線を利用して通勤通学する方へ、新幹線の定期券費用の一部を助成するものです。

通勤者は、市内に在住し、県外へ通勤する方を対象に、定期券購入額から通勤手当を控除した額の2分の1、月額1万円を上限に最長3年の助成。通学者は、市内に在住し、市外の大学等へ通学する18歳以上25歳未満の学生を対象に、月額1万円を最長4年助成します。また、市外から新幹線で通学する公立小松大学の18歳以上25歳未満の学生についても、月額5千円を最長4年助成するものです。

県外への通勤者が対象であるため、市外への補助や転入者への補助期間延長など、対象の拡大を望む意見がありました。また、新幹線開業後の並行在来線について、県境をまたぐ場合に運賃が高くなることから、学生への補助を検討してほしいとの意見がありました。

■社会教育振興基金積立金 (30,000千円)

未来型図書館の備品等を今後購入するため積立を行うものです。毎年

3千万円を5か年積み立て、総額は1億5千万円程度を予定しているとのこと。

■児童福祉費返納金(2,932千円)

延長保育、すこやか保育、体調不良児保育事業に対する国の令和4年度子ども・子育て支援交付金精算に伴う返納金です。

延長保育等について、利用者のニーズに十分に配慮されているか、確認しながら、進めていってほしいとの意見がありました。

■認定こども園だいいち整備費 (137,200千円)

認定こども園だいいちの移転・改築に伴う土地取得費及び調査費等です。移転候補地は若杉町地内とのこと。

移転先選定等に際しては、ハザードマップの浸水区域から外れていること、主要道路からのアクセス、私立のこども園と競合しないこと、将来を見越した適切な定員を設定することを基準としているとのこと。

■障がい児給付費(32,000千円)

障がい児への福祉サービスのうち、放課後等デイサービスの利用者増加に伴う増額分です。

放課後等デイサービスについては、今後とも受け入れ体制の拡充に努めていくよう求めました。

■学校給食運営費(3,932千円、債務負担行為540,000千円)

学校給食の調理業務委託料のうち、人件費の賃金改定増額分及び、公会計化に伴い年度内に事前契約する食材発注費用分の債務負担行為です。

と食育及び地産地消の推進を求めました。

■こまつシェアサイクル管理運営費 (5,300千円)

観光客やビジネス客の利便性・回遊性の向上を目的に、貸出自転車を10台追加して75台に、ポートを5か所追加して30か所にする予定です。

自転車が増えたらしくならないよう、自転車の保全とPRを兼ねたテントのようなものを設置することや、安全対策として、ヘルメットの貸出しや自転車道の整備を検討するよう求めました。

■SDGs未来都市推進費 (1,300千円)

太陽光発電システムや蓄電池、薪ストーブ、断熱窓等の設置に対する補助金申請が増えていることに伴う増額補正です。

冷房、暖房等について、少しでも効率よく利用してもらい、省エネの観点からも、次年度以降も継続し、より一層利用して頂く仕組みにするよう求めました。

■ごみ減量化・リサイクル推進費 (11,100千円)

令和6年4月からの廃食油の回収方法の変更に伴い、スーパリーに設置する回収ボックスを事前に購入しておく費用です。

廃食油の回収方法や、回収ボックスを設置するスーパリーなどの情報について広報等でPRするよう求めました。

議案第80号 小松市基金条例について

条例ごとに表現等が異なっていることから、27の基金中22の基金を集約し、小松市基金条例を新設するものです。集約により基金の積立や運用に係る規定を統一し、基金の適正管理と効率化を図るものです。

議案第96号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第5号)について

■物価高騰緊急支援給付費 (追加給付分) (629,000千円)

国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、物価高騰により大きな影響を受けている住民税非課税世帯に1世帯当たり7万円を支給するものです。年内から支給開始できるように、作業を進めているとのこと。

■生活応援プレミアム付商品券発行費 (730,000千円)

物価高騰の影響を受ける市民生活の下支えに加え、北陸新幹線小松駅開業の賑わい創出と消費喚起による地元経済の活性化を目的に実施するものです。商品券は1冊あたり1万4千円分を1万円で販売する予定です。1世帯2冊までの購入が可能で、取扱店については、小松商工会議所の会員事業所も登録を可能とし、大手スーパー、量販店、ドラッグストアなどでも利用できるようになります。販売開始は令和6年5月を予定しているとのことでしたが、出来る限り早い実施を求めました。

総務企画

委員長	片山 瞬次郎
副委員長	南藤 陽一
委員	吉柴 文悟
委員	中野 肇
委員	新高 寛之
委員	高野 哲郎
委員	宮西 健吉
委員	川崎 順次

■報告第91号 工事請負契約について

末広野球場改修工事のうち電気設備に係る工事一式を請負契約しようとするものです。

照明器具について、メンテナンスが容易に行えるように特殊な器具を使用しないなど、十分な検討を求め、意見や、スコアボードについて、パブリックビューイング等への利用など、スタジアムの幅広い活用方法に期待する意見が出されました。

■未来型図書館の整備に向けた基本的な考え方について

未来型図書館の具体的な立地場所については、公会堂が立地する一団の土地とし、公会堂を解体するとともに、図書館・博物館・教育研究センターは、機能の再編・集約、移転ののち解体し、公園施設として活用を図ることです。

公会堂について、大ホールは、現行基準では都市公園法等に適合せず建設が認められていないとのこと。公会堂は平成23年度の耐震診断結

果を踏まえ、所要の安全対策を行ってきており、これによりは値に大きな変化はありませんが、当面の危険性を回避してきたということ。しかし、中長期的な継続利用については、公会堂の躯体自体の補強が必要となり施設の機能が大きく損なわれてしまい、継続的な利用は現実的ではないと考えているため、解体の方針であるとのこと。

公会堂の解体については、市へ様々な要望があると思われるが、大ホール機能は確保できないこと等を市民や関係団体に丁寧に説明することを求める意見がありました。

一方で、現在大ホールは音楽関係者を中心に利用されており、解体した場合には市内に千席規模の音楽ホールがなくなることとなります。利用団体への説明が不十分であり、他施設では十分な活動ができないことなどから、公会堂の存続や新たなホール整備を求める声が上がっており、團十郎芸術劇場うららや市民センターなどの代替施設の拡充を求める意見が出されました。

■職員の懲戒処分について

職員7名の懲戒処分を行ったものです。

処分内容について、より厳格な措置が必要ではないかという意見や、人事異動を行うべきであるという意見が出され、異動の時期にも配慮を求める意見がありました。

福祉文教

委員長	岡山 晃宏
副委員長	齋藤 和美
委員	濱口 淳也
委員	吉村 範明
委員	梅田 利和
委員	橋本 米子
委員	灰田 昌典

■議案第94号 指定管理者の指定について(中関係部分)

令和6年4月1日から令和9年3月31日まで第一地区コミュニティセンターの指定管理者を社会福祉法人小松市社会福祉協議会に、令和6年4月1日から令和11年3月31日まで連代寺子育てセンターの指定管理者を社会福祉法人大和善隣館に指定するものです。

■老人福祉センター千松閣の営業休止について

建物周辺で地すべりや地割れが発見され、崩壊等のリスクがあるため、令和5年末から営業を休止します。

今後は、公共施設マネジメントの観点から施設の存続等を検討することです。

利用者に対し、類似施設の案内や高齢者の外出の機会を充実させるためのソフト事業など、元気な高齢者を増やす施策を求める意見がありました。

■プレコンセプションケア普及啓発事業について

若い世代に向けて、将来の妊娠等のライフプランを考えながら健康づくりを行うことの必要性について普及啓発事業を実施するものです。

公立小松大学生の意見を反映させ興味をきっかけとなる動画を作成することです。

■職員の懲戒処分について

市民病院職員2名を含む市職員7名の懲戒処分を受け、市民病院から今後の対策についての報告がありました。

就職したくなるような明るい職場環境づくりを求める意見や職員同士がコミュニケーションをとれる機会を設けることを望む意見がありました。

今回をきっかけとし、再発防止と職場環境改善に取り組み、より良い病院になることを期待する意見がありました。

■小松市私立教育・保育施設長会との懇談会について

「各園が抱える諸問題について」をテーマに意見交換会を行いました。それを踏まえ、保育士不足や障がい児の受入れに係る教育と福祉の連携についてなど各グループで交わされた内容を委員会でも協議しました。

今後とも、現場の意見を大切に、委員会審議に活かしていきたいと思